

# 【医療従事者向け】 PTEGのよくある質問集

## 管理のトラブル

- Q1 PTEGチューブ交換の際、古いチューブにガイドワイヤーが途中までしか入らない
- Q2 カテーテル交換後の留置の確認方法
- Q3 カテーテルが自己抜去され、その後チューブの挿入ができない場合
- Q4 簡易懸濁法による薬剤投与は可能か？

Q1 PTEGチューブ交換の際、古いチューブにガイドワイヤーが途中までしか入らない

A1 :

ガイドワイヤーの無理な挿入はチューブの破損を引き起こし、遺残などの合併症につながるので行うべきではありません。古いチューブを完全に抜去したのちに、瘻孔にガイドワイヤーや交換用チューブを挿入することになります。

## Q2 カテーテル交換後の留置の確認方法

A2 :

透視下で交換している場合は、ライブで確認可能です。そうでない場合は交換後に単純写真を撮影して確認します。カテーテルが気管分岐部と横隔膜を超えて足側まで留置されていることが必要です。

Q3 カテーテルが自己抜去され、その後チューブの挿入ができない場合

A3 :

まず先端開口の細いチューブを入れてみてください。不可能な場合は、もしガイドワイヤーの挿入が可能であればそれで瘻孔を確保し、ダイレーターで拡張したのちにカテーテルを挿入します。PTEG造設キット内にあるピールアウェイシースダイレーターは単品で販売されています。

Q4 簡易懸濁法による薬剤投与は可能か？

A4 :

可能です。薬剤によるチューブ閉塞を防ぐためにも、同法による投与を推奨します。